# 中米太平洋沿岸における津波エネルギー分布

# Distribution of Cumulative Tsunami Energy along the Pacific Coast of Central America

# 羽鳥 徳太郎[1]
# Tokutaro Hatori[1]

[1] なし
[1] None

中米太平洋岸域の津波は、18 世紀中期から記録されており、近年メキシコ中部近海で頻発している。津波は地震の規模と比べ多様であり、1992 年ニカラグアの“津波地震”は知られている。1995 年メキシコ地震も比較的大きな津波（津波マグニチュード、m＝2.5）を伴った。本稿では、メキシコ～パナマ間を 150㎞ 区間に分割し、最近 104 年間(1900-2003)と歴史津波（1732-1899)による各区間の波高２乗累積値を求め、津波活動の推移を比較検討した。

解析の結果、全期間 272 年間（1732-2003)の累積値は、メキシコのアカプルコ～マンサニヨ 600㎞ 区間が大きく（アカプルコ付近が最大)、中米全域の 51%,ついでエル　サルバドル～ニカラグア間が 21%になる。マンサニヨ～シワタネホ間では、最近 104 年間の実測累積値は、近年の顕著な地震活動を反映し、実測値が期待値より２倍はど上回っている。しかし、アカプルコ以南 300㎞ の区間では逆に実測値が小さい。これは、今後津波発生の可能性が高いことを示唆する。